

---

# とあるマフィアと科学と魔術と神と

鳩雅 瑞維

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とあるマフィアと科学と魔術と神と

### 【Zコード】

Z8527Z

### 【作者名】

鶴雅 瑞維

### 【あらすじ】

VARIAで暗殺業をしていた神影はある日とあるの世界の人間と出会う。

VARIAでなぜか連絡がとれるのはフランという自分の後輩だけ。

なんで他には連絡が届かないの?

突如少女の頭の中に流れ出した記憶。

それは少女に何を引き起こすのか

## 登場人物（前書き）

これは「とある」と「REBORN」の混合小説です。  
そういうのが苦手な方はお引き取りください。

## 登場人物

主人公	名前 瑛蓮 神影（えいれん みかげ）	年齢 16	性別 女	性格 ボーッ…としている。
サブ?	能力 レベル4 幻術現実（適当でなんて読むかは分かりません；）	幻術の腕は高く、炎の純度も高い。他に雲が出せる。正義感の欠片がほとんどなかつたりする。	容姿 黒い髪に赤い目。綺麗系に入る。少し筋肉のついたスリルな体系	幻術で出したものを現実にだす事が出来る。少し有幻覚に似ている。
サブ?	その他 本人はまだ知らないけど神の上司に値する人だつたりする。	VARIA雲の幹部。	VARIAに戻れるよう試行錯誤をしている苦労モノ。	その他 本人はまだ知らないけど神の上司に値する人だつたりする。
容姿 エメラルドグリーンの髪と目。少し童顔の少し女顔	性格 毒舌蛙。キツイ一言が多い。 語尾がのびる。一人称「ミー」二人称「ユー（？）」	年齢 不明	性別 男	名前 フラン
容姿	性格 エメラルドグリーンの髪と目。少し童顔の少し女顔	年齢 不明	性別 男	名前 フラン

能力	レベル不明	神の力
出番のない能力	あるいはレベル6イツチャツテル能力。ほぼ	
その他	実はフランが神の上司の弟だったりしちゃったり。	
	VARIA霧の副幹部。 <small>マモンがいる</small> 興味本位で世界をくつつけちゃつ	
た犯人。		
名前	暗影 楓	
年齢	不明	
性別	女	
性格	気まぐれ。怒るとヤヴァイ。	
容姿	強情。欲が強かつたり強くなかったり。フランの義姉。	
能力	神影そっくり	
能力	フランとほぼ一緒	
その他	神の上司であり復讐者の最高責任者でありフランの姉。	
	興味本位で記憶消して偽名使って弟のいる世界にいってみ	
ちゃつた人		

## 登場人物（後書き）

混合なのか混合じゃないのかわからない連載始りました；  
どうなるんなこの連載？！

## プロローグ（前書き）

はじめにプロローグです！

## プロローグ

ザシユツ

いつも聞きなれた音が自分から出た感覚がする。

あるファミリーを潰しに来た私。いつも通り幻覚を使って手早く帰るつもりだった。

なのに……

「カハツ……ファミリーの奴ら……」

脇腹に激痛が走る。

普段のトレーニングでもそりそり怪我しないものだからより一層痛く感じた。

## グラフ

田の前の景色が180度回転した。真後ろは崖だったようだ。

（ああ……打ちひげ悪かつたら即死だよね。いやだな、まだ  
やりたいことたくさんあるのに……）

グシャツ

私の意識はそこで途切れた。

「おっしゃー……だから言つたのこー。記憶を消すのやめすこと、  
いますよーってさー」

後輩の声が聞こえた気がした。

プロローグ（後書き）

プロローグ終了！

「あなたはどこから来たのですか?」ミサカは警戒しながら聞い掛けます

あれから何分たつたかは知らないけど、私は生きていたようで、激痛はあるけど起き上がる事が出来た。

「あれ? .....? ヒーヒーヒー」

だけどもそこには崖の下ではなかつた 誰かが助けてくれたのか?  
どこかの屋上らしい。イタリアでは見られないような建物であつた  
けど、不思議と日本であるのが分かつた。

「いや、イタリアから日本つてどんだけだよ.....」

私は起き上がりて身の周りと方位を確認した。

ちゃんとボックスもあるし、指輪もある。服もヴァリアーのだし剣  
も銃も、あるいはとかベルのナイフまであった。

「方位は.....うん、真っ暗すぎるだろ」

下が明るすぎるせいか星も月も見えなかつた。少し雲が張つている  
から月は見えないんだろ?けど。

「まあほんじから降つよ。やついた時、

「あなたはどこから来たのですか?」ミサカは警戒しながら問い合わせます

真後ろから声がした。私は気配のない声に驚いて後ろを振り返った。

「気配が感じられなかつたこの少女は何者なんだ？」「ヴァリアーでも気配を読むのは得意な方だつたのに。」

なんて答えればいい？なによりこの少女は裏の人間か？

「私は……イタリアから来た」

「イタリアといいますとマフィアと食べ物のおいしい国ですね。とミサカは思い出しながら答えます。しかしイタリアの方がなぜ学園都市に？とミサカは疑問を問い合わせます」

裏というわけではなさうだ。警戒の色も見られない。緊張した時の体の硬直も見られない。

「私は並盛という町を探しに来たんだ。それにしても学園都市とはなんだ？聞いたことがない」

とつさに考えた言葉。ボンゴレ十代目の故郷だという並盛。ボンゴレの人間ならだれでも知っている事。

この時ほどボンゴレが日本生まれなのに感謝した。

「並盛という地名は聞いたことがありませんね。とミサカが日本地図を思い出しながらいいます。学園都市をしらないとはさすが外国人ですね。とミサカは日本と外国の違いに关心をしめします」

「うざえ そう思つてしまつた私を誰も責めないでくれ。」

「学園都市とは総人口230万人弱、東京都西部の大部分をしめる巨大大都市です。とミサカは説明を始めます。その人口の8割が学生という事から学園都市といわれています。と、ミサカは生徒の人数に驚きながらいいます。その生徒達は超能力を発現させたための特殊なカリキュラムが組まれています。とミサカは実験を思い出しながらいいます。能力は「無能力（レベル0）」から「超能力（レベル5）」まであります。とミサカはあるレベル5を思い出しながらいいます。」

一瞬私はこのまま笑つてもいいだろうか？と思つた。これじゃあまるで「とある」の世界みたいじゃないか。

私の知つている日本にそんな都市はない。むしろ東京都には並盛がある。

そういうえばミサカっていう人出てたね？200000人のミサカネットワーク。打ち止め（ラストオーダー）である20001号。

「ははっ……どうこう事だよミサカちゃん」

「あなたは僕から来たのですか? とミサカは警戒しながら聞いて掛けます」(後)

ミサカちゃん到来! 」のミサカちゃんは9000何ぼかのミサカちゃんにしたいと思います。

「ていうか私の名前出てない」

「ごめんね神影ちゃん。」

次はフランと一方通行と黄泉川をだそつと思います。

ちなみに原作数カ月前つて事で

神影ちゃんを上条と同じ高校に行かせたいですね。

最後に! これは一方通行。『ベル夢にしよう!』と思ひへ……

神影ちゃんみんなに愛されてるけどね^ ^

『そうだ、人間界にいこう』

あのあとミサカはどこかへ行つた。

「私は9824号です。ミサカは神影に言つておきます」

私の名前も言つた。ずっとあなたと呼ばれるのは嫌だしね。

あれから私はすぐに学園都市に関してよくわかるマップとかを探して買つた。

あいにくと金に困りはしなかつた。財布の中すうまいし、ブラックカードもプラチナカードもある。

だけど一番気になるのはこの学園都市での？私”。

生徒として登録されているのだろうか？それとも不法侵入者になつているのだろうか。

「そういえば……携帯つながるかな」

プルルル　お掛けになつた……

プルルル　お掛けになつた……

プルルル　お掛けになつた……

プルルル　ガチャッ

やつと繋がった！！

『はーもしましー？』

「フラン..」

『あ、もしかして神影先輩ですかー？！今何処ですかー？』  
『アリーナで探しでますよー？』

「うさ……日本の学園都市って所にいる

『学園都市ですねー……！応調べておきまー』

「分かった」

それについても何故フランにだけ繋がったんだろ？……

そつこくば『氣』を失う前にもフランの声が聞こえたよつな……

ズキン……！

『そうだ、人間界にいこう』

『大丈夫さ、俺は最強なんだからや』

『アハッ、元気だね』『そんな事してどうなつたつていうわけ？』  
『時の使者あ？それになれつて？』『無理』『じゃあ、遊ぼうよ』  
『君は一人じゃない』『この世にパラレルワールドなんて何億と存  
在するよ』『あの馬鹿餓鬼はまた人間界に？』『いじめられるつて  
案外おもしろいね』『この世に悪魔は存在するよ』『だつて俺はな  
つた事があるからね』『守護者なんつもに縛られたくない』『じ  
やあ死ねば？』

『じゃあ教えてやるよ。俺の名前は』

そこで私の意識はまた途絶えた。

あつと道端で倒れてるんだが。」

だつて氣を失つ前に

「ちよつとーあんたビーフたじやん?ー」

て聞いえた。

て、これ黄泉川とおなじ語尾だよ……

『俺の名前は……暗影くろかげ楓かえでだ。覚えておけ』

楓とはだれなんだろう。

『そうだ、人間界にいこひ』（後書き）

一方通行出せなかつた……（・人・・）

神影の名前をやつと出せました！いやあよかつたよかつた。

少し意味不明だつたかなー、言葉。

いつか番外編で書こひうと思ひます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8527z/>

---

とあるマフィアと科学と魔術と神と  
2011年12月29日23時52分発行